

長岡鉄工業青年研究会
ホームページ

発行所 長岡鉄工業青年研究会

編集者

事務局 新潟県長岡市表町3丁目1番8号

発行責任者 清水 一 裕

小林 厚 揮・鈴木 敬 子

リナシビル3 8階

長岡鉄工業青年研究会

TEL 0258-36-6982

編集責任者 井 上 航

本田 恵 亮・丸 山 栄 紀

印刷所 (株)北越時報社 長岡市住吉2丁目5番13号

新年度を迎えて

長岡鉄工業青年研究会
二〇二四年度会長 高坂 壮

願い申し上げます。

二〇二四年度長岡鉄工業青年研究会会長を務めさせていただきました。社長岡金型の高坂壮です。一年間、宜しくお

今年で発足五十三年を迎える当会の歴史と、ここまで伝統を繋げてくださりました。諸先輩方の思いを想像いたしますと、職務の重みに、身の引き締まる思いであります。会長を務めるにあたり、改めて長岡の製造業の歴史、更には日本の製造業について私なりに考えました。今日まで存続されている企業の中、良い物を安く提供するべく大量生産の技術と共に成長してきた企業がほとんどのように感じます。しかし、時代と共に豊かになるにつれ、物があふれ、少しでも人と違う物が欲しい、最新の機器をいち早く手に入れたらというニーズの変化が大きくなり、昨今の製造業を取り巻く環境は、これまでのような価格と品質重視から多様なニーズへの対応力や製品開発のスピードに重きが置かれるようになりつつあると感じます。

また、長期化するウクライナ戦争や、イスラエル・ガザ地区の開戦等を経て、政治も経済も混沌とした状況が続いています。更には北朝鮮の軍事活動の活発化や悪化する台湾情勢等、深刻な懸念はまだ存在しています。そんな中、我々日本の製造業を取り巻く環境は、今後も燃料費・原材料費の変動や、サプライチェーンの確保等の先の読めない多くの課題と長く付き合う覚

悟が必要だと感じております。

これから先、これらの流れが更に進めば、企業を取り巻く経営環境は大きく変わり、多くの中小企業が、これまでの様に、自社内の技術や仕組みを強化するだけでは対処しきれないような状況が迫ってきているのではないのでしょうか。先の読めない不安定な事業環境であるからこそ、自社の事業を存続し、更には成長して行く為には、他社と共に新しい価値を創造し、変化に柔軟に対応できる外部とのネットワークを構築して行く事が重要であると考えました。

そこで、二〇二四年度活動方針は会員の皆様と青研の新しい価値を共に創造し、力強さに変えていくべく、「共創」と「強さ」を合わせ「強創（きょうそう）」といたしました。

一、会員増強

本年度現役会員数は二十四名となりました。会員数の減少は年々深刻化しております。会員減少に歯止めを掛け、更に増加に向けた流れを作る為には、青研の魅力を強化していく必要があるのではないかと感じております。これまで当会と関わりの方々の浅かった企業の方々へ向けて、複数の魅力を提供出来るように、当会の新たな魅力を会員の皆様と共に創る年にしたいと考えています。数ある事業の中でも、社会福祉やものづくり事業を中心とした施策を計画・実行して参ります。

二、社会福祉活動強化

本年度も地域貢献事業として、OB会員の皆様と趣旨にご賛同いただいた皆様、会員企業のご協力のもとで行われる「屑鉄集め」を実施いたします。当事業の際にはご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。昨年、屑鉄集めで得た浄財を元に行われる贈呈式に初めて参加させていただき、長岡に暮らす子供達や支援が必要な方々、施

設で働く方々へ、ものづくりが持つ魅力や未来へつながる可能性を伝える重要な役割の一部を、当会が担っている事を認識いたしました。本年は福祉施設にて夏休みの自由研究を兼ねた、ものづくりイベントを行い、ものづくりの魅力と可能性を発信したいと思っております。

更に、広報面では行政関係者や人材会社とのつながりを構築する等して、長岡市街の方々と求職者等の外部へ発信する機能の強化を図り、今まで接点の少なかった企業に向けて青研の魅力をPR出来る様にしていきたいと思っております。

三、ものづくり事業の改善

本年度は、各種イベント等の製作物の内容をアップデートして参ります。鉄を加工した作品で、参加者に喜んでいただくだけでなく、その先に、電気や電子機器を組み合わせた事事で、感動を与える様なものづくりを目指し、当会の技術力をPRすると同時に、新たな技術の獲得や新規の人脈構築を図ります。

四、交流事業

昨年、四年振りに参加しました「長岡まつり平和祭慰霊神輿渡御」に、本年度も参加いたします。昨年同様、コロナ禍前に比べて現役会員が大幅に減少している状況の為、OBの皆様や担ぎ手の方々のご協力無くしては、実現出来ません。ご賛同いただけます皆様には、変わらぬご支援ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

新年度も現役会員数が少ない為、各事業の企画・運営にはご迷惑をお掛けする事も沢山ある事と思いますが、会員と力を合わせ、当会を支えてくださる皆様方が魅力を感じ、未来の青研活動を支える強さへと繋がる様に、一年間、私に出来ることを精一杯務めてまいります。

一年を振り返って

長岡鉄工業青年研究会
二〇二三年年度会長

清水 一裕

三〇三三年度会長
を務めさせていただ
きました株式会社清水
水溶接板金所の清水
一裕でございます。

約三年の長きにわたり我々の生活を脅かしてきた新型コロナウィルス感染症の脅威が去りやっとなりコロナ禍以前に戻ってきた一年でした。

本年度は「気づき築く」をテーマに鉄工青研の活動を通して自己成長へ繋がる気づきを得ていただき様々な学びを経て多くのものを築いていただくべく活動をしてまいりました。私自身この一年を通して改めて気づかされた事はヒトとの繋がりと感じました。本年はコロナ禍で自粛しておりました事業をすべて再開したいと思ひ事業を計画いたしました。会員数が減少しているなか従来の事業展開を行うのは担当する会員の負担が大きかったと思います。しかしながら会員皆様のご理解、ご尽力のおかげで無事事業を完遂することができました。また四年ぶりに参加することが出来ました長岡まつり平和祭慰霊神輿渡御でも事前の準備から当日の渡御まで大変多くのOB会員、一般の皆様にご協力いただき事業を行うことが出来ました。すべて私一人だけでは実現することは不可能ですが、我々一人一人が鉄工青研をより良くする思い、力をもって行動していただいたおかげで本年度の功績を残すことが出来たのだと思います。まさに当会の根幹にあります相互扶助の精神を体感する一年となりました。

二〇二四年度は高坂会長の下、新たな

ことに挑戦していただきより興隆した組織を築いていただこうという私も微力ながら、会員の皆様と一緒に高坂会長を支えていく所存でございます。

最後になりますが、お世話になりました各関係機関・団体の皆様、OB会員の皆様、そして、一年間支えてくださった会員の皆様に改めて心より感謝申し上げます。

一年間誠にありがとうございました。

委員会事業報告

総務委員会

委員長 井上 航

二〇二三年度は青研活動初めての総務委員会にて委員長を務めさせていただきました。私は青研活動において、ある程度の役員経験があった為、初めての委員会の委員長としての不安よりかは、新たな成長ができる、やる気に満ちあふれてスタートした事を覚えております。

清水会長よりこの一年は役員会、委員会を統合し誰でも意見を言い合える環境に変え、各委員会に司会・書記を割り振り、会員全員が「気づき築く」場を設けてほしいと要望がありました。先ずは役員会に関連する書類の変更や作成を行い、役員会が滞りなく進めるように準備しました。役員会当日は司会・書記を他委員会が担当している為、私の務める事として、司会のサポートの他、役員会で発言をし、役員会の場を活性化させ、若手の会員を引っ張っていく事が私の務めではないかと思ひました。それは、入会当方で経験が浅かった頃の私は、役員会では全く発言する事が出来ず成長できるチャンスすら自ら逃していたからです。結果としては、私個人として役員会で十分に発言する事はできましたが、もっと意見を

言い合える場をつくる事はできたのではないかと、と思う部分は多々ありました。今年度で青研に入会してから九年経ち、残す年齢数は後三年です。青研の中ではベテラン勢になりつつもまだまだ未熟な部分があり、成長できるチャンスが控えている事を嬉しく思います。このような気づきを与えてくださるのは清水会長をはじめ、役員、会員の皆様のご指導・ご協力のお陰です。一年間誠にありがとうございました。

◆卒業式

今年度

年は、コロナウィルスが落ち着いてきたため、久方ぶりに卒業式及び懇親会をコロナ過前の形式にて執り行うことができました。



来賓として中越鋳物青年研究会会長をお招きし中締めのご挨拶をお願いするなど、数年行われていなかった事前準備や対応に「気づき」が発生したと思ひます。魚藤による開催は二回目ということもあり、打ち合わせはスムーズに行うことができ、当日も滞りなく卒業生を送り出すことができました。運営につきましては、改善点が見つかりましたので次年度に引継ぎ、運営方法を築いていく次第です。

御卒業会員 四名
武 怡央奈 様
御卒業会員 四名
中越鋳物青年研究会五十嵐 敏 様
石田 和 様
門倉 侑大 様
中津山 隆博 様
青研会員 十九名
(井上 航・本田 恵亮)

◆忘年会

二〇二三年十一月二十四日(金)、和ダイニング朔にて、昨年同様に現役メンバーの忘年会が開催されました。アトラクションなども途中行い、この一年の成果や出来事を振り返りながら皆様と楽しい時間を過ごせたと思ひます。開催後に参加者の方から新鮮なアトラクションの内容にてお褒めの言葉をいただき運営側もうれしく思ひました。ご参加していただいた会員、ご協力していただいた委員会メンバーに深く御礼申し上げます。運営をする際の改善点もありましたので事前確認等を徹底していきます。

(丸山 栄紀)

◆臨時総会・合同新年会

二〇二四年二月二日(金)、ホテルニューオータニ長岡にて臨時総会と合同新年会を行いました。臨時総会は、次年度の人事が無事に決議されました。高坂次年度会長より、当会の強みであるモノづくりを通して新たな魅力を創ることや会員減少の現状を打破するという心強いお言葉をいただきました。今年度の事業で、気づいたことや築き上げたことを次年度の活動で活かしてまいります。

合同新年会
の両会長
挨拶では、
スクリーン

で写真を交えて一年間の活動報告をいたしました。写真を通じて、我々が普段どのような活動を行っているのかを皆様により深く知っていただけたと思います。最後に、事業の運営にご協力いただきました会員の皆様に感謝申し上げます。

臨時総会

出席

委任状による出席

（合計二十名）

オブザーバー参加者

合同新年会

御来賓

長岡鉄工業青研歴代会長

長岡鉄工業青研会員

中越鋳物青年研究会歴代会長

中越鋳物青年研究会会員

オブザーバー参加者

（合計四十七名）

（井上 航・本田 恵亮）

◆定期総会・卒業式

二〇二四年四月六日(土)、割烹魚藤にて定期総会と卒業式を実施いたします。

渉外・研修委員会

委員長 高坂 壮

本年度の渉外・研修委員会は、会長の掲げる「気づき築く」は本より、もう一つの重要なテーマである、事業費の見直しを裏テーマに活動を行いました。

会員減少により、年々苦しくなる会の懐事情がありつつも、当会活動の活性化や新入会員獲得と外部へのPRの為に、むしろ事業数は増やしていきたいという状況にありました。

予算的に最もネックであった研修旅行では、なるべく代理店に委託する事なく、委員内で一から計画を立て運営する事で、大幅に減額を図りました。コストを優先

し計画していく中でも、安全上のリスク管理等、省いてはいけない重要なものがある事が分かり、今後の研修旅行事業の在り方について、様々な気づきを得る事ができました。

更に、セミナー形式の事業を増やしたいとの命を受け、今年度長岡市より依頼を受け行った、雪下ろし機試作開発事業にて、八月に中間報告を兼ねたプロジェクト会議、三月に一年を通した活動報告会を開催しました。普段は講師をお招きして話を聞く形式が多い中、会員が発表者となる事で、活発に意見を出し合う事ができ、新たな学びの形の一例を築く事ができた様に感じています。

役員を重ねるにつれ、モチベーションの下がり目にあった私に、刺激的な経験と機会を下さった三役の皆様、いつもどこか抜けている私をサポートし支えて下さった副委員長・委員の皆様、ご協力いただいた役員・会員の皆様に心より感謝申し上げます。

◆労働安全セミナー

令和五年六月十六日(金)まちなかキャンパス長岡にて、(株)LSMサポートの鈴木誠様を講師にお招きして労働安全セミナーを開催しました。当セミナーはOB会員との交流も目的としており、当日は多くの方からご参加いただきました。安全管理体制や法令に関する解説をはじめとしてトークイベント形式にて参加者の抱える疑問や悩みに答える構成で実施しました。実務において直接活かすことのできる学びを提供し、参加者からは好評を得られたことから、セミナーの意義を果たすことができました。今後も各社や地域の発展に繋がるよう、知識の向上と情報交換の場を提供していく所存でございます。

ご参加いただきました皆様におかれましてはご多忙の中、ご出席いただきあり

がとうございました。

参加者 長岡鉄工業青年研究会

OB会員 十一名

会員 十二名

（水落 正樹）

◆蒼柴神社参道整備共同事業

令和五年

六月三日(土)

長岡蒼柴ラ

イオンズク

ラブけやき

支部様、長

岡大学レオ

クラブ様と

の共同事業

として、蒼

柴神社の参

道整備を行

いました。昨年に続き当会は主に石畳の

整地作業を行いました。回を重ねる毎に

作業の熟練度も増し、作業効率・品質も

上がっていく様子は、正に鉄工青研の人と

なりを体現した事業だと感じました。

今年度は二度に渡り、懇親会にも参加

させていただきました。二団体との交流を更に

深める事ができました。

今後多数の皆様にご参加いただき、

次年度こそはゴールとなる参道入口へた

どり着く事を期待いたします。

参加者

長岡蒼柴ライオンズクラブけやき支部様

長岡大学レオクラブ様

会員 十二名

（池田 成輝）

◆雪下ろしロボットの試作開発

本年度は長岡市より依頼を受け、高齢者の屋根の雪下ろし作業中の事故防止の対策を目的とした、雪下ろしロボットの試作開発を行いました。

八月に会員と長岡市、(株)FieldW



orks様をお迎えし、主に雪下ろし機構の検証を目的とした試作機について、意見を出し合うプロジェクト会議を行いました。十一月にNBIC敷地内に実験用の屋根を設置し、十二月の降雪と共に実験を開始しました。三月には再度長岡市をお招きし、報告会を行いました。あいにくの暖冬の為、思う様に実験が進まず苦戦をしましたが、今後、省人化や自動化する為の課題を洗い出す事ができました。ご多忙の中、本事業にご協力いただきました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

メンバー

長岡鉄工業青年研究会

長岡市地域振興戦略部

(株)FieldWorks

（高坂 壮）

◆研修旅行

令和五年十月十三日(金)から十四日(土)の二日間をかけて四年ぶりとなる研修旅行を行いました。

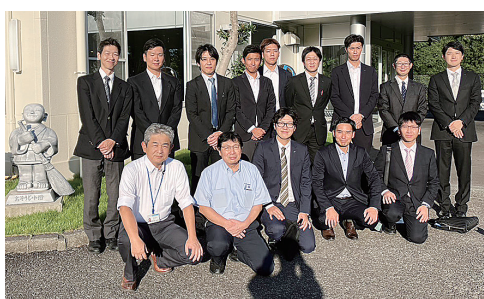
一日目は、静岡県の株式会社木村铸造所様に伺いました。発泡模型を用いた消失模型鑄造法を得意とされており、当日は発泡スチロール模型の製作工程を見学しま

した。鑄造事業の技術を発展させ、3Dスキャ

ンを活用したリバー

エンジニアリングなどの新事業にも取組ま

れており、事



業の発展を継続することの重要性を実感しました。

二日目は、群馬産業技術支援センターのデジタルソリューションラボを視察しました。ARゴーグルの体験や、ロボットを活用した作業の効率化などの最新技術を見学しました。

今回の研修旅行では、視察先の取り組みを学ぶと共に、会員同士の親睦をより深められたと思います。

最後に事業にご協力いただきました関係各社の皆様とご参加いただきました皆様に参加者 会員十一名

（高坂 澤也）

実行委員会

委員長 高尾 博仁

二〇二三年度のテーマである『気づき築く』に沿って六つの事業を担当させていただきました。

実行委員の経験がなく、初の委員長を務めることで、不安と戸惑いでいっぱいでしたが、私自身が大きく成長できるチャンスと考え事業に取り組んでまいりました。

五月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが五類に移行となり、行動制限の緩和によって、コロナ禍前の様式に戻し事業を行うことを前提としましたが、四年間で状況は大きく変わっており、会場選定、スケジュール調整、原材料費の高騰、物価高など、コロナ禍前と同じようにはならず、さまざまな課題に直面しました。そこで、課題を乗り越えるために委員同士が意見を出し合い協力し、チームワークを発揮しました。

事業企画、準備と実施、参加者の満足度向上など、多くの重要な任務を達成するため、定期的なミーティングやメン

バー間の意見交換、スケジュールの調整やタスクの優先順位付けなど、委員同士の円滑なコミュニケーションを築きあげることが事業の成功に不可欠であることを実感しました。

最後に委員長として一年間やり遂げられたのも、清水会長をはじめ、両副会長、村山副委員長、委員の皆様のご理解・ご協力のおかげです。また、実行委員会の事業にご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

◆卒業生追い出しゴルフコンペ

二〇二三

年四月二十

二日(出)に、

柏崎カント

リークラブ

にて卒業生

追い出しゴ

ルフコンペ

を開催いた

しました。

コンペ当

日は風が少

しありまし

たが、晴れ

わたる日本

海を望む

絶好のゴル

フ日和とな

り、表彰式

は三年ぶ

りに懇親会

を兼ねて行

うことがで

きました。卒業生はコンペ三名・表彰式三

名のご参加

をいただき

ます。現役

会員はコン

ペ十一名・



ペ十一名・

表彰式十六

名と多くのご

参加をいた

だきました。

ゴルフ・表

彰式を通して

卒業生の皆

様との最後

の事業が大

変盛り上がり

、良い思い出

を作っていた

だき、気持ち

よく送り出

せたのでは

ないかと思

います。皆

様に御協力

いただき深

◆講演会「トップの流儀」

二〇二三年五月十九日(金)に、ホテルニューオータニにてインドアゴルフ経営者であり長岡カントリー倶楽部の倶楽部選手権優勝など数々の功績を残されている深井修次様を講師にお迎えして、ゴルフを通して会社経営に活かすマネジメント技術を学ぶ講演会を開催いたしました。ポジティブな気持ちへ即時に切り替えるメンタルマネジメントや数値化など明確な目標設定による自身のモチベーション向上、キャディの経験から学ぶ他者のモチベーション向上を促す考え方は、ゴルフを通してこれらの技術向上を促し、経営に活かすことができると気づく良い機会となりました。

講演を引き受けていただきました深井様とご多用の中参加していただきました皆様、誠にありがとうございました。

参加者 OB会員

中越铸物青年研究会 会長

一名

現役会員

十四名

(村山 広)

◆夏季ゴルフコンペ

二〇二三

年七月二十二

日(出)に、長岡

カントリー倶

楽部にて夏季

ゴルフコン

ペを実施いた

しました。当

日は天候にも

恵まれ絶好

のゴルフ日

和となり、

楽しくプレー

をすることが

できました。



◆屑鉄集め

B会員の皆様と交流を深めることができ、有意義な時間を過ごすことが出来ました。プレー、表彰式を通してOB会員の皆様方には今後の青研活動についてのご相談や現役当時の思い出など貴重なお話しをすることができ、今後の事業にも繋げられたのではないかと思います。一部運営にミスがありご迷惑をお掛けすることもしましたが、次年度以降改善できるように引き継いでいきたいと思います。拙い運営ではございましたが、ご参加、ご協力いただいた皆様に深く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

参加者 ゴルフ

表彰式 三十九名

優勝者 南 聡史 様

(大塚 淳史)

二〇二三年度は九月二日「屑の日」が休日のため九月八日(金)の実施となりました。トラックは例年より少ない五台と限られた台数での作業となりましたが、提供企業様のご協力により、実施日前後での回収や屑鉄を直接納入先へ持ち込んでいただいた結果、実施当日の回収量を適正に調整することができ、事故やけが等も無く前年比八割増の物量を回収することができました。

「屑鉄集め」の

事業は、多くの

企業・団体様と

会員に支えられ

て活動できてい

ることを改めて

実感することが

出来、今後継続

していくために

も新規会員勧誘

の呼びかけ等を

積極的に行ってい

きたいと思いま



した。
最後に屑鉄集めに対する御理解と御協力を賜った提供企業様、そして回収作業に参加いただいた会員の皆様のお陰と心より感謝申し上げます。

屑鉄提供企業三十三社・一団体
参加者 十七名

(高坂 諒)

◆ものづくりワークショップ

二〇二三年九月二十二日(金)に、長岡市立新町小学校主催の新町ものづくりワークショップにてオリジナル置時計作りの教室を開きました。大人が組み立てると十分程度で完成する簡単な工作でしたが、児童が組み立てると三十分以上時間を要し、想定より長い製作時間が必要となりましたが、全員が無事に個性あふれるオリジナルの置時計を完成させることができ、金属加工の面白さを体感してもらえたのではないかと思います。

今後も鉄工業の面白さ伝え、学ぶことのできる有意義なワークショップを展開することで、一人でも多くの児童が興味をもってけると嬉しく思います。先生として参加してくださいました会員の皆様、ご協力いただき誠にありがとうございました。

参加者 新町小学校児童 二十一名
会員 十名

(田中 祐樹)

◆福祉児童養護施設寄付贈呈式

生活弱者支援施設・医療福祉施設 寄付金贈呈式

二〇二三年十二月十五日(金)に、「柿が丘学園」もみの木工房つばさ「双葉寮」の三施設にて寄付贈呈式、十二月二十一日(木)に「フードバンクながおか」「ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた」の二施設にて寄付金贈呈式を行いました。各施設の状況の説明や内部を見学させていただき、支援を必要とされている方

が多くいらつしやる現状を目の当たりにする事で、いかに屑鉄集めが地域社会に寄与している事を知ることができ、意義を感じることができました。また、贈呈品を開封し子供たちと一緒に遊び、触れ合うこともでき、多くの笑顔と感謝の気持ちを感ずることができました。ご協力いただき誠にありがとうございました。

(高尾 博仁)



まつり委員会

委員長 長谷川 雅利

昨年五月に新型コロナウィルス感染症が第五類へと移行し、日常の生活様式に戻り、今年度は四年ぶりに長岡まつり平和祭慰霊神輿渡御に参加し、鉄工青研神輿渡御の復活を最大のテーマに始動し、無事神輿渡御は盛大に執り行うことができました。

会員数の減少など課題を抱え、ご卒業生の皆様からは心配の声もありましたが、従前の運営方法を変えるなど試行錯誤し準備を進め、また準備から当日の運営にかけて、ご卒業生や炎斗會様よりご紹介いただいた方々からご助力を賜り、現役会員の後押し頂きました。誠にありがとうございました。

さらにこの度、当会の神輿は提灯をオリジナル行燈とし、以前にも増して目立つ出来となり四年ぶりの渡御復活に相応しい出来となりました。

今年度、まつり委員長を務めさせていただき、私自身まつり委員会への所属も企画も初めてということもあり最後まで心配や不安は堪えませんでした。が、前年度に行われた神輿渡御参加に向けた「長岡まつり平和祭慰霊神輿渡御決起集会」や、準備の過程においての会員同士の意見交換、ご卒業生や炎斗會の皆様からのご支援、そして多くのご協賛と神輿渡御へご参加いただき、伝統ある鉄工青研神輿渡御を今年度も行うことができました。清水会長がテーマに掲げる「気づき築く」が体現できたと存じます。次年度は当会の神輿渡御も一九九四年に始まり三十年を迎えます。会員数の減少や担ぎ手人数の確保等の懸念は今後もありますが、素晴らしい鉄工青研神輿渡御の歴史をさらに築いていけるよう今後ともよろしくお願いいたします。ご理解ご協力いただきました多くの皆様に心より感謝申し上げます。

◆第十五回リレーマラソン越後丘陵公園

二〇二三年五月二十一日(日)、第十五回リレーマラソン越後丘陵公園に参加しました。コロナ禍の影響で三年ぶりの参加ではありましたが当会の恒例事業となりました。

今年度は四年ぶりの長岡まつり平和祭慰霊神輿渡御復活を最大の目的として、会員同士の団結力と士気を高めるべく企画しましたが、当日は天候に恵まれマラソン日和のなか、怪我なく完走することができました。

日頃運動しないという人がほとんどで走っている最中は苦しいものですが、本番に向けての練習や、皆が襷を繋いで四十二・一九五キロを走り切ることで連帯感や団結力が生まれたように思います。また競技後の慰労会ではより交流が深まり、その後の神輿渡御に向けての士気も高めることができました。ご協力いた

きました皆様に心から感謝いたします。

競技 十三名 懇親会 十二名

(橋本 直輝)

◆二〇二三年長岡まつり平和祭慰霊神輿渡御

今年度は四年ぶりに

長岡まつり平和祭慰霊神輿渡御を執り行いました。当日



は天候に恵まれ、多くの方にご参加いただき総勢百十二名で神輿を担ぎ大歩通りを練り歩き、コロナ禍前のような盛大な渡御となりました。

企画を始める当初は会員数の減少や運営における経験不足、運営に関わる会場やその他依頼先の再考等ありましたが、準備から当日にかけての運営に十名のOBの皆様と炎斗會様からご紹介いただいた二名の方々からご助力賜り、準備を進めるなかでの現役会員皆様の気づきがあり、長い歴史を刻む伝統ある「鉄工青研神輿渡御」はコロナ禍から復活を遂げ今年度もまた行うことができましたと存じます。皆様のご理解とご協力に心より御礼申し上げます。

参加者

OB 二十八名

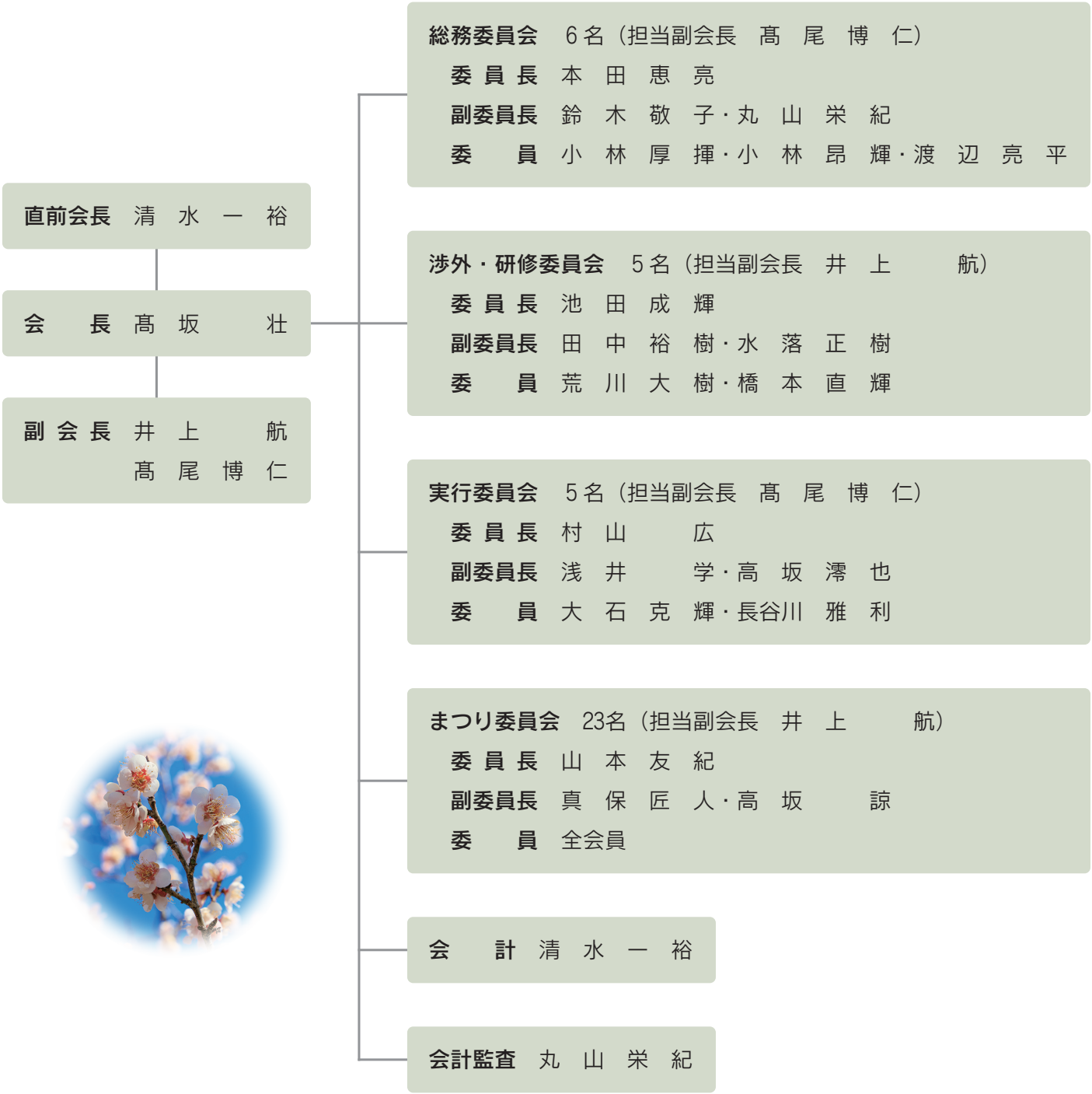
一般 六十八名

現役 二十一名

参加者合計 百十七名

(長谷川 雅利)

2024年度 長岡鉄工業青年研究会組織図



祝 ご卒業

阿 部 修 平
株式会社 阿部商店

大 塚 淳 史
株式会社 アーバン三越

(以上2名)

新入会員のご紹介

荒 川 大 樹
株式会社 シマキユウ
〒九四〇ー八五一〇
長岡市原町一ー五一五

二〇二四年度四月入会

小 林 昂 輝
株式会社 カネコ商会
〒九四〇ー〇〇一一
長岡市下々条四ー一五二ー二

渡 辺 亮 平
テラノ精工 株式会社
〒九四〇ー二三一ー
長岡市三島新保四二〇

二〇〇〇年九月三十日生

丸 山 栄 紀
〒〇二五八ー二四ー三九六五
〇二五八ー二四ー三九七二
〇二五八ー八四四八

一九九四年九月三日生